

合同教育研究会議（3月12日開催）議事概要

【公開版】

1 開催日時

平成26年3月12日（水）13:00～13:15

2 場所

本部棟特別会議室

3 出席者

中村学長、齋藤副学長、柴田副学長、瀬川副学長兼事務局長、似鳥学生支援本部長、石堂企画本部長、佐々木高等教育推進センター長、武田看護学部長、遠山社会福祉学部長、渡邊ソフトウェア情報学部長、豊島総合政策学部長、姜共通教育センター長、千葉盛岡短期大学部長、植田宮古短期大学部長、石橋国際文化学科長

（事務局）

鈴木教育研究支援室長兼地域連携室長、八重樫学生支援室長、今野企画室長、稲森宮古事務局長、中里企画課長、菊池総務財務課長、寺澤主幹、鈴木主査

（欠席）

佐々木生活科学学科長、宮沢経営情報学科長

4 会議の概要

【議 事】

○ 社会福祉学部のディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの改正について

- ・ 齋藤本部長及び遠山学部長が資料No.1に基づき説明した後、原案どおり承認された。

《主な発言等》

「系」は教員組織と読み替えてもいいのかという質問があり、現在の教育群を作ったときに、「群」は教育の体系であって教員組織ではないということで始めたが、実際は、「系」の先生方が集まって授業の相談等を行っており、実質的にはそうなっているという回答があった。なお、本学では、「群」や「系」は他の学部では使わず社会福祉学部だけ使っており、外部の説明もだが、内部的にも「系」の位置づけを教学の方で整理しておくべきという付言があった。

また、認証評価では、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの整合性が見られるので、両ポリシーの対応を意識しておくべきであるという意見があった。

さらに、カリキュラムの在り方については、文科省の大学教育再生加速プログラム（AP）にも盛り込まれているが、学士の学位を認定するには本学ではどのようなカリキュラム構成であるかを学生に提示できるようにすべきであり、ただ単位をとればいいのかではなく、単位をどういう流れでとってきたかが重要であること、本学のカリキュラムは教育の根幹であり、今回の提案とは別に、全学の問題として、改めて議論が必要であるとの付言があった。